

《研究室紹介》

農 村 社 会 学 研 究 室

長谷川 昭 彦

日本の農村社会は、家族農業体制にもとづく「家」と基礎的生活の場として社会的統一性を持った「村」とを基礎として構成されている。かつては「家」は直系家族の性格をもち「村」はある程度の封鎖性をもった村落共同体としての性格をもっていたが、最近では「家」も「村」もその構造と性格を激変させてきている。わが農村社会学研究室は、この点について農村社会の変化の方向性を、都市を中心にして農村部を周辺に配した広域地域社会の形成、異質化した住民を分業と民主主義の原理に則って統合する地域複合社会の形成そして開放的で任意性を基調とした社会関係を基調とする農村コミュニティの形成と考え、主に日本農村を研究対象として農村調査により実証的に捉えようとする。

また、最近の日本の経済発展は戦前の貧しかった時代には想像も及ばぬほどの豊かさを達成し、現在の日本は繁栄を誇っているようにみえるが、その陰に日本の農村が次第に活力を失って、停滞化し、荒廃してきている事実がある。この点に着目して、もう一つの課題として、特に過疎地域を主として地域社会作りの目標の再検討、地域の資源の活用、地域の環境や地域基盤の整備、地域の人間関係の調整・集団の組織化、価値体系ないし地域文化の確立という各面の調和のとれた施策が必要であるという視点から農村計画の手法を用いて、地域を振興し、農村を活性化する方法を研究している。

